

公益財団法人ちばのWA地域づくり基金

2014年度 事業報告

(2014年4月1日～2015年3月31日)

【2014年度概要と成果】

2014年度は、寄付と助成のプログラムの運営を中心に行ってきた。特に事業指定助成プログラムの各事業について、カンパイチャリティキャンペーンやドネーションパーティーを通じて、社会の関心や共感を得る活動を行った。

テーマ型基金「困難を抱える子どもの今と未来を支える基金」では、助成原資となる寄付金を募るために、チャリティグッズの販売、チャリティライブの開催などを積極的に行った。

また、多様なステークホルダーによる地域づくりの動きを作っていくための第一歩として「中小企業のCSR」をキーワードにシンポジウムを開催した。

次年度は、さらなる地域内資源循環を促進するために当財団の役割である「つなぐ」仕組みづくり提案を積極的に行っていきたい。

■ 2014年度の主な活動

○事業指定助成プログラム寄付募集活動実施

--第1期7事業 助成総額：2,103,336円

--第2期5事業 寄付総額：3,412,165円

--第3期4事業 寄付総額：333,816円

--ドネーションパーティーを開催し、地域課題解決の取り組みを伝え、寄付募集を行った。

○テーマ型基金「困難を抱える子どもの今と未来を支える基金」寄付募集活動実施

--講演会の開催、チャリティTシャツの販売、チャリティライブ等実施し、本テーマについての支援を呼びかけた。

--寄付総額：636,665円

○冠ファンド「生活クラブ虹の街エッコロ福祉基金」助成実施

--17件の応募の中から8団体に助成、総額198,5万円

○カンパイチャリティキャンペーン実施

--カンパイチャリティでは前年度より30店舗増えて52店舗が参加。

○CSRシンポジウム開催

--多様な主体による地域社会づくりを進めることを目的に「千葉CSRシンポジウム2014」を開催した。

* 2014年度の受入寄付額：12,073,275円

累積寄付総額 22,446,320円

【公益目的事業 1：公益活動支援助成事業】

定款第 4 条（事業）の定めに基づく、事業の分類

1. 公益活動を行う団体に仲介・提供するために、公益活動に必要な資金等の資源を募り、確保する事業

2. 公益活動を行う団体に対し、助成、顕彰等を行う事業

（1）事業指定助成プログラム

事業計画に基づき、第 2 期、第 3 期、第 4 期の助成先の募集、決定、寄付募集を行った。
概要は以下の通り。

■第 2 期

- ・寄付募集期間：2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日
- ・寄付募集事業数：5 事業（第 1 期継続 4、新規 1）
- ・寄付募集目標総額：3,108,000 円
- ・寄付総額：3,412,165 円（達成率 109.8%）
- ・助成先／寄付総額：

アレルギーを持つ親子が安心して外出できる「ノンアレカフェ」開催事業

（NPO 法人千葉アレルギーネットワーク）／252,899 円

児童養護施設を退所する子どもたちの自立を支える「はばたき基金」（はぐくみの杜を支える会）
／1,835,553 円

外国人の子どもたちの学びを支援する事業（認定NPO 法人外国人の子どものための勉強会）
／349,093 円

病気と向き合う子どもが笑顔になる贈り物事業（NPO 法人子ども劇場千葉県センター）
／801,238 円

長作に「明日の種」をまく畑再生プロジェクト 2014

（企業組合あしたね 障害福祉サービス事業所「明日の種」）／173,382 円

■第 3 期

- ・エントリーシート受付：2014 年 6 月 23 日～7 月 8 日（事業概要公開プレゼン 7 月 18 日）
- ・申請受付期間：2014 年 7 月 19 日～8 月 8 日
- ・申請件数：4 事業
- ・採択件数：4 事業（新規）
- ・寄付募集期間：2014 年 10 月 1 日～2015 年 9 月 30 日
- ・寄付募集目標総額：4,120,000 円
- ・選考会開催概要：

開催日：2014 年 8 月 30 日（土）

会場：ホテルメイプルイン幕張

出席者（選考委員・五十音順・敬称略）

始関 信夫（株式会社ビリーブ・市原ロータリークラブ）

関谷 昇（公益財団法人ちばのWA地域づくり基金）＊議長

篠塚 泉（千葉テレビ放送）

選考方法

4件の申請事業について、助成趣旨及び選考基準に沿って、申請書類と「公益ポータルサイトちばのWA！」に開示されている団体基本情報、プレゼンテーション及び質疑をもとに絶対評価で選考を行った。

選考基準

- ①事業指定助成の趣旨と条件に合致しているか
- ②公益性・地域社会のニーズがあるか
- ③事業計画や成果目標が具体的で実現可能性が明確で妥当なものか
- ④寄付募集活動を通じて事業の必要性や成果を地域社会へ発信できるか
- ⑤事業の継続・発展性が見込めるか

採択結果

4件の申請事業すべてを採択とした。いずれの団体の提案内容も、社会的認知度が低いテーマであり、行政の諸事業では対応が困難な諸課題に着目したものである。また、各団体の実績や実施体制に裏付けられた提案内容になっていたことは、とても高く評価でき、採択となった。

・助成先／寄付総額（寄付額は3/31までの分）：

発達障害を持つ青年の一人暮らし体験支援事業（NPO法人ウィズ柏）／48,800円

鋸山登山道整備事業（公益財団法人金谷美術館）／160,400円

ユーススペース（中高生支援）事業（NPO法人子どもの環境を守る会Jワールド）／16,400円

子どもシェルター運営事業（NPO法人子どもセンター帆希）／108,216円

＊寄付募集期間：2014年10月1日～2015年9月30日

■第4期

- ・エントリーシート受付：2014年12月5日～12月26日（事業概要公開プレゼン1月16日）
- ・申請受付期間：2015年1月17日～2月6日
- ・申請件数：3事業
- ・採択件数：2事業（第1期、第2期継続1、新規1）
- ・寄付募集期間：2015年4月1日～2016年3月31日
- ・寄付募集目標総額：1,720,000円

・選考会開催概要：

開催日：2015年2月28日（土）

会場：ホテルメイプルイン幕張

出席者（選考委員・五十音順・敬称略）

岩村 真奈美（中央労働金庫）

始関 信夫（株式会社ビリーブ・市原ロータリークラブ）

清水 洋行（千葉大学）

戸谷 久子（千葉県国民健康保険団体連合会）

松田 浩志（公益財団法人ちばのWA地域づくり基金）*議長

選考方法

3件の申請事業について、助成趣旨及び選考基準に沿って、申請書類と「公益ポータルサイトちばのWA！」に開示されている団体基本情報、プレゼンテーション及び質疑をもとに絶対評価で選考を行った。

選考基準

- ①事業指定助成の趣旨と条件に合致しているか
- ②公益性・地域社会のニーズがあるか
- ③事業計画や成果目標が具体的で実現可能性が明確で妥当なものか
- ④寄付募集活動を通じて事業の必要性や成果を地域社会へ発信できるか
- ⑤事業の継続・発展性が見込めるか

採択結果

3件の申請事業のうち、2件を採択とした。提案内容が地域社会にどのようにつながり、財団とともに寄付をはじめとした様々な支援を得ていくことにつながるか、実現可能性と明確性という点を重視し、2件の採択となった。

・助成先：

広域連携による地域の魅力発信イベント 房総ジャンボリー

(NPO 法人いすみライフスタイル研究所)

病気と向き合う子どもが笑顔になる贈り物事業 (NPO 法人子ども劇場千葉県センター)

* 寄付募集期間：2015年4月1日～2016年3月31日

2014年度 事業指定寄付目標額：600万円

寄付実績：3,745,981円

(2) テーマ・地域提案型助成プログラム

2013年度当財団が設置したテーマ型基金「困難を抱える子どもの今と未来を支える基金」への寄付募集を開始した。6月には「困難を抱える子どもの今と未来を支えるために」講演会&リレートークを開催し、先進的な取り組み事例を参考に、多くの人たちと課題を共有することができた。

■プロジェクト会議

- 第1回 4月8日 講演会について、助成内容について意見交換
- 第2回 5月12日 助成内容について意見交換
- 第3回 6月19日 今後のスケジュール

■講演会&リレートーク開催概要

開催日時：2014年6月7日（土）14：30～17：20

会場：千葉市ビジネス支援センター会議室 2.3

参加者数：59名

内容：講演「困難を抱える子どもを支えるために」

NPO 法人山科醍醐こどものひろば 理事長 村井 琢哉さん

リレートーク：「子どもたちの支援活動から見えること」

安井飛鳥さん（NPO法人子どもセンター帆希理事）

高橋克己さん（児童養護施設はぐくみの杜君津施設長）

水鳥川洋子さん（協同組合千葉県若人自立支援機構専務理事）

濱松敏廣さん（NPO法人環境維新隊東京ユネスコクラブ・ステップアップ塾代表）

野老真理子さん（大里総合管理株式会社 代表取締役）

松田浩志さん（ホテルメイプルイン幕張・当財団副理事長）

有吉徳洋さん（ソーケングループ代表取締役社長・当財団理事）

<http://blog.canpan.info/chibanowafund/archive/57>

■テーマ型基金「困難を抱える子どもの今と未来を支える基金」

寄付募集：2014年6月7日より開始

寄付状況：2014年3月31日現在 636,665円

<http://chibanowafund.org/?info=762>

2014年度 目標：3プログラム 400万円

実績：1プログラム 636,665円（寄付募集のみ）

(3) 冠基金による助成・褒章プログラム

2014年度は1件の冠基金の運営を行い、年度末に1件、日本労働組合総連合会千葉県連合会と千葉県労働者福祉協議会から寄付があり、基金を設置した。

■「生活クラブ虹の街エコロ福祉基金」(寄付者：生活クラブ生活協同組合千葉)

高齢者、障害者、次世代育成、生活困窮者が暮らしやすくなるための事業、調査・研究に助成する「生活クラブ虹の街エコロ福祉基金」を設置し、助成を実施した。

- ・募集説明会：6か所開催（市原・四街道・佐倉・栄町・検見川・松戸）19団体30名参加
- ・申請受付期間：2014年10月20日～11月10日
- ・助成総額：1,985,648円
- ・申請件数：17件（障がい者7／次世代育成9／生活困窮者1）＊内1件は辞退
- ・採択件数：8件
- ・選考会概要：

開催日時：2015年2月21日（土）13：00～17：00

場所：蘇我勤労市民プラザ会議室

選考委員（五十音順・敬称略）

北原理雄（千葉大学）

小松孝之（ちばぎん総合研究所）＊議長

松本武（NPO法人NPOテクノサポート）

山野井美和子（NPO法人まちづくりサポートひと・まち倶楽部）

大森智恵子（ちばのWA地域づくり基金）

岩上章子（生活クラブ生協千葉）

山本百合（生活クラブ生協千葉）

選考方法

16件の申請事業について、助成趣旨及び選考基準に沿って、申請書類と「公益ポータルサイトちばのWA！」に開示されている団体基本情報、プレゼンテーション及び質疑をもとに厳正な審査を行った。

選考基準

- a.申請事業が本助成の趣旨や条件に合致しているか
- b.実施団体の日頃の活動に、十分な市民性や創造性があるか
- c.公益性があり、地域社会のニーズがあるか
- d.事業内容・収支計画ともに具体的かつ妥当で、責任をもって事業を推進・完了できるか
- e.人的資源があり、周囲からの協力や連携が見込めるか
- f.事業終了時点での成果が見込まれ、事業の継続・発展が期待できるか

選考結果

16 件の申請事業のうち 8 件が採択された。採択された事業は、特に地域のニーズ、実行性、継続発展性において優れた計画であり、地域や他団体と連携して実施し、成果が期待できるものだった。

・助成先：

四街道市民ミュージカル実行委員会（四街道市）「四街道市民ミュージカルⅡ」

NPO 法人おやかカフェ（千葉市）「幕張えほん図書館整備事業」

NPO 法人ワーカーズコレクティブ風車（佐倉市）

「ストップ無縁社会・つなぐ場創りのための設備整備事業」

NPO 法人小林住みよいまちづくり会（印西市）「第 10 回小林鯉のぼり大会」

NPO 法人いもむし（柏市）「視覚シンボルを用いて、自閉症児童の育ちを地域社会で支える」

協同組合千葉県若人自立支援機構（千葉市）「児童養護施設入所児の就労支援事業」

NPO 法人たからばこ（南房総市）「気になる子、そして全ての子を温かく育む地域づくり事業」

NPO 法人 NPO B-Net 子どもセンター（酒々井）

「B-Net 子ども夏祭り～一人ひとりが主役の熱い夏～」

http://chibanowafund.org/?page_id=893

■「東日本大震災被災地・被災者支援活動助成」（寄付者：日本労働組合総連合会千葉県連合会・一般社団法人千葉県労働者福祉協議会）

日本労働組合総連合会千葉県連合会のカンパ活動と千葉県労働者福祉協議会のチャリティ募金からの寄付により、使途を限定した冠基金の設置を決定した。助成実施は 2015 年度。

2014 年度 目標：3 件 300 万円

実績：2 件「生活クラブ虹の街エコロ福祉基金」200 万円

「東日本大震災被災地・被災者支援活動助成」100 万円

3. 公益活動を支援するために、不動産等の資源を活用する事業

■物品仲介事業

今年度は 4 件の物品提供があり、7 件引き渡しを行った。

個人や団体からの物品の提供があり、NPO 法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブが管理する「ちば NPO 情報館」登録団体へ、仲介を行った。提供情報については、ウェブサイトにも掲載し、進捗や報告を公開している。

2014 年度 目標件数：10 件

実績：提供件数：4 件（企業 2 件、団体 1 件、個人 1 件）

引き渡し数：7 件（クリアファイル・おもちゃ・クリスタルパックなど）

■その他

- ・遺贈による寄付の案内チラシ（A4版フルカラー5,000枚）を作成し、寄付者、支援者、イベント等で配布した。

4. 前各号に掲げるもののほか、公益活動を行う団体に対し、その経営に必要な資源を提供する事業

■ドネーションパーティーの開催

助成団体が実施している事業はいずれも地域社会の課題解決の一助になっているものの、認知不足により市民の協力が得られる場が限られ、資金不足や一部の人たちだけの取り組みになってしまっている状況である。団体の代表が地域社会の課題解決に挑むチャレンジを多くの人に伝え、共感を得、支援者を増やす機会として、ドネーションパーティーを開催した。

- ・開催日時：2015年2月8日（日）14:00～17:00
- ・会場：ホテルメイプルイン幕張
- ・参加者数：46名
- ・参加団体：NPO法人千葉アレルギーネットワーク、はぐくみの杜を支える会、認定NPO法人外国人の子どものための勉強会、NPO法人子ども劇場千葉県センター、企業組合あしたね障害福祉サービス事業所「明日の種」、NPO法人ウィズ柏、公益財団法人金谷美術館、NPO法人子どもの環境を守る会Jワールド、NPO法人子どもセンター帆希

<http://blog.canpan.info/chibanowafund/archive/89>

■事業指定寄付カタログの作成と配布

具体的な寄付方法と寄付先を見せるツールとして作成し、配布した。

第2期・第3期各5,000部発行、フルカラーA4サイズ16ページ



■事業指定専用ウェブページ作成とソーシャル・メディアの活用による情報発信

- ・ホームページ内に各事業専用のページを設け、寄付申込、クレジットカード決済機能を活用した。

- ・ブログ、Facebook、Twitter を併用し、寄付金額の進捗や寄付者からのメッセージ、事業の進捗等、随時更新を行った。

5. 公益活動を行う団体及び資源提供者に対するコンサルティング事業

■集合研修

- ・採択した団体と当財団理事による集合研修を3回開催した。
- ・寄付募集開始に向けての「マーケティング講座」を行った。
- ・事業実施の行動計画と寄付募集の立案として「アクションプランシート」を作成し、サポート、アドバイスをを行った。
- ・アクションプランシートをもとにしたフォローアップを全団体に対し行った。
- ・寄付者情報を定期的に助成団体に提供し、寄付者に対する報告（礼状や会報）の作成サポートを行った。

6. 公益活動に係る調査研究、情報収集及び情報発信に関する事業

- ・ホームページや Facebook、ブログを活用し、事業の進捗や募集情報、活動報告を随時行った。
- ・メールマガジンを月一度発行した。

7. 公益活動を推進するための普及・啓発物品、寄附金付物品及び出版物等の販売

■募金箱・寄付付き自動販売機の設置

- ・ホテルメイプルイン幕張館内3か所に募金箱を設置した。
<http://blog.canpan.info/chibanowafund/archive/94>
- ・寄付付き自動販売機については、前年度までの2台のみで、今年度は設置に至らなかった。

■寄付付き商品の開発・販売

- ・「困難を抱える子どもの今と未来を支える基金」のオリジナルマークをプリントしたチャリティ T シャツを作成し、イベント時に販売した。

■カンパイチャリティキャンペーンの実施

昨年度に続き、第2弾として実施した。

- ・実施期間：9月1日～11月30日
- ・参加店舗数：52店舗（千葉県内）
- ・寄付先：事業指定助成団体、テーマ型基金（店舗選択）6事業
- ・寄付総額：352,595円

http://chibanowafund.org/?page_id=986

■チャリティライブの実施

「ちばのWA&Shira presents チャリティライブ “ENN” Dream Weaver」

株式会社ユーエスシー（焼肉レストラン Shira）の協力により、ライブを2回開催した。

- ・第1回：2014年12月12日 石谷嘉章ライブ 30名参加
- ・第2回：2015年2月12日 大滝秀則ライブ 23名参加

http://chibanowafund.org/?page_id=1038

■イベントブース出展

- ・生活クラブ生協ビオサポ大試食会 9月20日ホテルメイプルイン幕張

エコ福祉基金2013年度助成団体の活動報告掲示、子ども基金チャリティTシャツ販売、カムカムドリンク販売、募金箱設置

- ・ユニバーサル農業フェスタ 10月4日佐倉市御伊勢公園、11月22日四街道市文化センター
子ども基金チャリティTシャツ販売、カムカムドリンク販売、募金箱設置、募金箱ワークショップ参加者8名

■その他

- ・インターネットクリック募金「gooddo」を活用し、団体の認知度を高めるとともに支援金の募集を行った。

<http://gooddo.jp/gd/group/chibanowafund/>

8. 前各号に掲げる事業のほか、社会を構成する多様な主体が公益活動を支え、担う仕組みの検討及び実施に係る事業

■CSRシンポジウムの開催

多様な主体による地域社会づくりを進めることを目的に、「千葉CSRシンポジウム2014」を開催した。共催：千葉大学

開催日時：2015年3月11日（水）15：00～19：00

会場：ホテルメイプルイン幕張

参加者数：シンポジウム64名、懇親会32名

内容：基調講演：泉貴嗣（允治社・CSRコンサルタント）

ジャムセッション：「企業とNPOとの協働とは何か？～企業がCSRに取り組むときの苦労とカネ～」

ファシリテーター：有吉徳洋（ソーケングループ） コメンテーター：泉 貴嗣

パネリスト：林 恵子（NPO法人ブリッジフォースマイル）・下田直人（エスパシオ）・松本浩志（マテックス）・吉原二郎（日本自動ドア）

<http://blog.canpan.info/chibanowafund/archive/93>

9. その他前条（定款第3条）の目的を達成するために必要な事業

- ・助成金による事業の成果を社会に発信していくために、助成16団体の活動現場への訪問を実施した。随時、ホームページに掲載する。

- ・財団運営財源確保のための歳末チャリティキャンペーンを実施した。

目標300万円に対し、488,979円の寄付があった。

- ・一般社団法人千葉県地方自治研究センター発行「自治研ちば vol.15」寄稿「公共の担い手 あなたの寄付が地域を支える、未来をつくる」

【法人運営（管理）事業】

1. 機関会議の運営

（1）理事会の開催

定例理事会を4回、臨時理事会を1回開催した。

第1回理事会（2014年5月23日15時～17時 ホテルメイプルイン幕張）

2013年度事業報告及び決算案、理事候補者名簿等

臨時理事会（2014年6月3日20時～20時15分 ホテルメイプルイン幕張）

理事長、副理事長、専務理事の選定

第2回理事会（2014年9月16日15時～16時15分 ホテルメイプルイン幕張）

事業指定助成プログラム第3期等

第3回理事会（2014年12月9日16時～17時40分 ホテルメイプルイン幕張）

助成褒章選考委員、助成団体活動調査、歳末チャリティ、ドネーションパーティー等

第4回理事会（2015年3月24日 書面会議）

2015年度事業計画及び予算、役員報酬、評議員会開催等

（2）評議員会の開催

定時評議員会を1回開催した。

第1回評議員会（2014年6月3日18時～20時 ホテルメイプルイン幕張）

2013年度事業報告、決算書類決議、理事の選任、役員報酬総額等

（3）監査の実施

- ・監事が全5回の理事会にいずれも出席し、業務監査を実施した。
- ・2014年5月9日に年度末の監査を実施し、監査報告書を作成した。

2. 寄付者等の情報管理（Donor Relationship Management）

個人情報保護規定等に従い、寄付者等財団支援者の情報管理を徹底するとともに、DM等で寄付者への事業・成果報告、コミュニケーションを円滑に行えるよう、データベースの適切な管理と活用を行った。

データの管理については、クラウド型顧客管理アプリケーション・セールスフォースを活用し、寄付者管理、寄付金管理、助成金管理など一括して顧客管理を行った。

3. ウェブサイト管理

事業の進捗に合わせ、情報を追加、更新した。寄付募集情報、助成実績、メディア掲載情報などを掲載した。

4. 財団運営事務と管理体制整備

- ・事務局業務は専従2名体制で行った。
- ・理事間の情報共有のためにクラウド型コラボレーションツール「サイボウズ Live」を活用した。

5. その他

(1) 大学との連携

- ・6月5日 神田外語大学演習クラス参加
- ・7月16日 神田外語大学演習クラス学生による募金活動「ちばのWA with You」参加

(2) 他との連携

- ・10月27日 一般社団法人全国コミュニティ財団協会設立記念交流会参加
- ・3月2日、3日 全国コミュニティ財団協会主催講演会、研修会に参加
- ・9月11日 NPO 法人市民社会創造ファンドによる市民ファンド研究会「広域を対象とする基金の活動から市民ファンドの継続性・発展性を考える」参加
- ・11月15日 CANPAN 会議 2014「助成期間と情報開示」参加
- ・10月10日 稲毛オープンスタジオ「アート夜ばなし」にて財団紹介
- ・ヒアリング対応：9月5日かながわ生き生き市民基金、9月8日長野県みらい基金、3月23日市民社会創造ファンド

(3) 助成褒賞選考委員会

- ・当財団が行う助成事業及び褒賞事業において、公益性の維持、確保及び支援団体の選定を円滑に行うために、助成褒賞選考委員9名を新たに委嘱した。任期は2015年1月1日～2016年12月31日（2年間）。以下の通り。（敬称略 五十音順）

石川久（淑徳大学コミュニティ政策学部教授）

松澤一美（千葉県社会福祉協議会常務理事）

岩村真奈美（中央労働金庫）

勝又恵里子（NPO 法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ副代表理事）

横山清美（浦安三番瀬を大切に作る会）

飯田耕一（株式会社C I Cパートナーズ代表取締役）

山野井美和子（NPO 法人まちづくりサポートひと・まち倶楽部事務局長）

細矢孝（株式会社CMS代表取締役・千葉県中小企業家同友会副代表理事）

清水洋行（千葉大学文学部准教授）

(4) メディア掲載実績

☆千葉日報：4月20日付朝刊「ちばのWA地域づくり基金 寄付金 募集の6割に」

☆千葉日報：5月18日付朝刊ちばオピニオン寄稿「人口減少社会支える市民力 市民コミュニティ財団が目指すこと」

☆読売新聞：6月5日付朝刊「困難を抱える子支援 基金が7日講演会」

☆千葉日報：6月11日付朝刊「貧困に苦しむ子ども支援へ 公益財団が千葉県内初の基金創設」